

## 単収200kg以上、2等級以上を目指して 適期に中耕・培土、排水対策、追肥を実施！

- 1 排水対策の徹底で湿害を回避→中耕・培土は適期に2回以上実施  
→うね間・周囲明渠と排水口を連結
- 2 子実肥大期の供給窒素量を増加→低地力ほ場での緩効性肥料の施用
- 3 帰化アサガオ類の徹底防除→培土と除草剤散布の体系処理

○新潟地方気象台の1か月予報（5月23日発表）では、降水量はほぼ平年並か多いの予報です。晴れの日を選び、すみやかに作業を行いましょう。

### 1 中耕・培土

#### (1) 中耕・培土の効果

- ①湿害防止……表面水の排水促進
- ②根圏の改善…通気性の改善による
- ③倒伏防止……不定根で茎基部を支える
- ④雑草防除……雑草を土に埋没させる

生育促進、  
収量・品質の向上

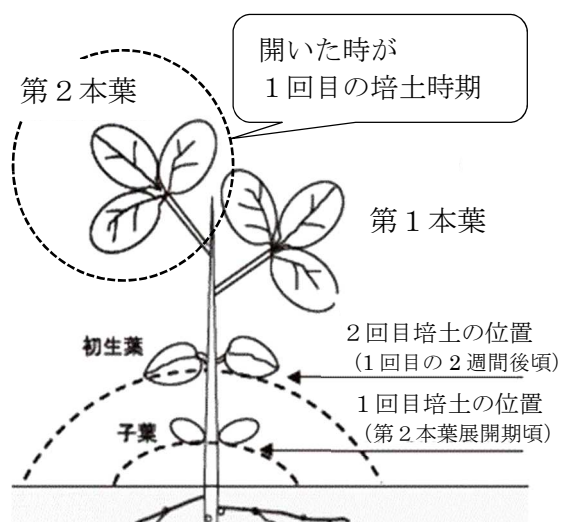
#### (2) 作業のポイント

##### 実施時期・位置のめやす（下図参照）

- 1 回目：第2本葉展開期頃（播種後20～25日頃） → 子葉節まで
- 2 回目：1回目の2週間後頃（播種後35～40日頃）  
→ 初生葉節まで（高さ15cm程度）

○適期に2回行う。

- 1 回目は梅雨時期にあたるため、本葉が2枚になったら直ちに実施する。
- 2 回目は開花始期（7月20日頃）までに終える。



○作業の留意点

- ① 雑草の発生が早い場合や多い場合  
1回目作業が遅くならないよう留意し、必要により培土回数を増やす。
- ② 出芽不揃いのほ場の場合  
生育良好な部分に合わせた時期で作業し、培土高は低めにする。
- ③ 茎元の土寄せ  
株元がへこむと、培土の効果が発揮されない上、株元に水が溜まり病害を招く恐れもあるので、株元までしっかりと覆うように培土する。

## 2 排水対策

- 中耕・培土後の溝は必ず周囲明渠（排水溝）に連結する。
- 周囲明渠は確実に排水路につなげ、降雨後の表面水が速やかに排水されるようにする。
- 本格的な梅雨に入る前に、排水溝の崩れを修繕し、地下水位の高いほ場や降雨が続く場合は暗渠栓を開放する。

## 3 追肥

- 湿害による葉の黄化や生育不良の症状が見られたら、排水を促した後、速効性肥料を窒素成分で 10a 当たり 2～3 kg 追肥し、培土する。
- 低地力が原因で収量が低い(めやす：実収 200kg/10 a 以下)ほ場では、緩効性肥料（シグモイド型被覆尿素 60 日タイプ）を、2 回目の中耕・培土前に窒素成分で 10a 当たり 6～8 kg 施用する。

## 4 雑草防除（帰化アサガオ類の防除）

- 帰化アサガオ類の発生が増えているので、確認されたほ場では対策を徹底する。
- 完全防除には除草剤と中耕・培土等を組み合わせた体系防除が必要である。  
まん延防止のために、農道や畦畔を含めた雑草管理を徹底し種子の増殖を防ぐ。
- 帰化アサガオ類は春から秋まで長期にわたって出芽し、出芽後 2～4 週間でつる化する。つる化すると防除が困難になるので、播種後から大豆開花期までの除草剤を組合わせた体系防除を行う。

### 帰化アサガオを中心とした難防除雑草除草体系

	大豆播種後	出芽揃期～ 初生葉展開期	大豆 2～3 葉期	大豆 4～5 葉期
慣行 除草体系	土壌処理 除草剤	-	-	大豆バサグラン液剤 +イネ科用除草剤
アサガオ等 発生ほ場		-	アタックショット 乳剤	大豆バサグラン液剤 +イネ科用除草剤
アサガオ等 多発生ほ場		パワーガイザー 液剤	アタックショット 乳剤	大豆バサグラン液剤 +イネ科用除草剤

- 帰化アサガオに効果のある土壌処理除草剤:コダール S 水和剤、フルミオ WDG 等
- 帰化アサガオ類以外の雑草でも、降雨等で作業が遅れ、中耕・培土だけでは十分な除草効果が得られない場合は、生育期に適用のある除草剤を散布する。

## 5 病虫害防除

- アブラムシ類は褐斑粒発生の原因となるので、発生初期に殺虫剤を散布する。

**農薬の使用にあたっては、ラベルに記載されている使用基準や注意事項・使用方法をよく読み、内容を遵守して使用しましょう。  
近隣の田畑に飛散しないように十分注意してください。**